

Express5800/T110m-S, T110m, T110mバリューモデル ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用において、ご注意くださいことがございます。
誠に您所入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読いただきますようお願いいたします。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- **本製品の各種マニュアルの入手方法について**

本製品のユーザーズガイド、メンテナンスガイド、インストレーションガイド、BMC 管理コンソールユーザーズガイドなどの各種マニュアルはEXPRESSBUILDER内に格納、または装置添付されています。なお、最新版のマニュアルは下記に掲載されておりますのでご参照ください。

<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>

→「ハードウェア」の「型番・モデル名から探す」を選択

→モデル名（T110m-SまたはT110m）を記入し「モデル名で検索」を選択

→検索結果からモデル名を選択

→「製品マニュアル」を選択

→該当モデルのユーザーズガイドを選択

- **Windows Server 2025プリインストールモデルをご購入された場合のインストレーションガイドの入手方法について**

（本体型番：N8100-3021/3022/3023/3021S01は対象外です）

Windows Server 2025の各種設定、再インストール手順に関しては、以下のNECサポートポータルサイトからインストレーションガイドをご参照ください。

・Express5800/T110m, T110m-S Windows Server 2025 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109880>

→ インストレーションガイド(Windows Server 2025 プリインストール製品編)

- **最新のESMPRO/ServerManagerの入手方法について**

以下のNECサポートポータルサイトからダウンロードしてください。

・ESMPRO/ServerManager Ver. 7

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110069>

インストール後、ESMPRO/ServerManagerセットアップガイドを参照して必要な設定を行ってください。なお、ESMPRO/ServerManagerのアクセス方式がRedfishの場合は、ESMPRO/ServerManagerのリモートコンソール機能、およびコンソールログ設定を利用できません。

- **最新の装置情報収集ユーティリティの入手方法について**

障害解析に必要な情報を採取できるようにするために、装置情報収集ユーティリティを最新版へアップデートしてください。装置情報収集ユーティリティは、障害発生時にOS上からシステムイベントログ(SEL)などを採取するツールであり、障害解析に必要です。最新版へアップデートしない場合は障害発生時に必要な情報が採取できない場合があります。

[装置情報収集ユーティリティの最新バージョンおよび、ダウンロード先]

<https://www.support.nec.co.jp/GuidanceCategoryProductSearch.aspx>

その他 > 装置情報収集ユーティリティ

・装置情報収集ユーティリティ (Windows版 Ver 3. x. x)

- **低温環境での運用について**

本製品には、環境温度の低温異常を検出した際に、ESMPRO/ServerAgentServiceがOSを自動的にシャットダウンする機能があります。

OSのプリインストール構成で出荷された場合、本機能は無効化されていますが、以下操作により意図せず有効化される場合があります。



CBZ-062978-001-05

1. EXPRESSBUILDERを用いてWindowsおよびESMPRO/ServerAgentServiceをインストールした場合。
2. Webに公開されている最新版のWindows向けESMPRO/ServerAgentServiceをインストール/アップデートインストールした場合。

低温異常を検出した際に自動的にシャットダウンを行う必要がない場合、以下URLに公開されている設定変更パッチを適用してください

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010107685>

● BMC設定の初期化について

- ・ オフラインツールメニューの[BMC] - [Configuration Initialization]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、他の設定は行わず、オフラインツールを終了してください。オフラインツールを終了することでシステムが再起動されます。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。
- ・ BMC管理コンソールの[メンテナンス] - [工場出荷時デフォルトのリストア]でBMC設定を初期化する場合は、初期化した後、システムを再起動してください。システム再起動後にオフラインツールを起動しBMC設定内容を再設定してください。

● BMC管理コンソールで表示される電圧値について

本製品がアイドル状態の時、BMC管理コンソール上でセンサ「P_VCC_CPU」の値が0になる場合がありますが、これは正常な値です。

● 仮想リムーバブルディスクのドライブレターの変更について

Windows OSの[ディスクの管理]画面で仮想リムーバブルディスクのドライブ文字を変更しようとすると、“ドライブ文字とパスの変更”がグレーアウトして選択できない場合があります。

このような場合は、以下の手順でドライブ文字を変更できます。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のコマンドを実行し、DiskPart を開始します。
diskpart
3. 以下のコマンドを実行し、ボリュームの一覧を表示して、ドライブ文字を変更するボリュームのボリューム番号を確認します。
list volume
4. 以下のコマンドを実行し、ドライブ文字を変更するボリュームを選択します。
select volume=n
※n：ドライブ文字を変更するボリュームのボリューム番号
5. 以下のコマンドを実行し、選択したボリュームにドライブ文字を割り当てます。
assign letter=l ※l：ボリュームに割り当てるドライブ文字
6. 以下のコマンドを実行し、DiskPart を終了します。
Exit

● BIOS SETUPのDMA Control Guaranteeメニューについて

BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent (SA) Configuration] - DMA Control Guarantee からカーネル DMA 保護機能を“Enabled(有効)”、または“Disabled(無効)”に設定できます。

「カーネルDMA保護機能」については以下をご参照ください。

<<https://learn.microsoft.com/en-us/windows/security/information-protection/kernel-dma-protection-for-thunderbolt>>

- ・ 本設定は“Enabled”（default設定）のままでご使用ください。
OSを新たにインストールする場合は、本設定が“Enabled”であることを確認してからインストールを行ってください。
- ・ 運用中に下記のMicrosoftの情報に記載されている問題が発生する可能性があります。
該当する問題が発生した場合は、本設定を“Disabled”に変更してください。
<<https://learn.microsoft.com/en-us/troubleshoot/windows-server/performance/stop-code-driver-verifier-dma-violation>>

※本設定を” Disabled” に変更しても改善されない場合は、BIOS SETUPの[Advanced] - [System Agent(SA) Configuration] -VT-d を”Disabled(無効)”に変更してください。

- **BMCファームウェアのリモートメディア機能にて、ファイル共有サーバー上のイメージファイルを仮想メディアとして使用時にWindowsの「ディスクの管理」で同一のボリュームが2つ表示される場合について**

BMC管理コンソールのメディアリダイレクション設定で、ファイル共有サーバー上の仮想イメージファイルを読み込ませてホストのWindows OSに認識させると、「ディスクの管理」ツールで同一のボリュームが2つ表示される場合があります。本問題は、表示だけの問題であり、現象が発生した際には、画面の操作タブから「最新の情報に更新(F)」を実施すると正常に表示されるようになります。

- **N8103-235 RAIDコントローラにて、Starter Packでドライバ適用後の再起動にて「シャットダウンしています」の表示が数十分続く場合について**

N8103-235 RAIDコントローラ(2GB RAID0/1)にWindows Server 2019およびWindows Server 2022を新規インストール後、Starter Packからドライバを適用し、再起動を行うと「サービスをシャットダウンしています: Windows Modules Installer。」という画面表示がしばらく切り替わらない現象が発生する場合があります。この現象が発生しても処理は停止していないため、そのままお待ちください。

60分以上待っても画面が切り替わらない場合は、巻末の「ファーストコンタクトセンター」まで連絡してください。

- **BMCのShared LAN機能について**

Shared LAN機能を使用する場合は、必ず以下の手順に従って設定を行ってください：

LAN1ポートをネットワークに接続します。

オフラインツールメニュー (Server Configuration Utility) を開きます。

[BMC] - [Configuration] - [Network] - [Management LAN]の順に選択します。

[Management LAN]の設定をShared LANに変更します。

設定後、60秒待ってからBMCリセットを実施してください。

- **BMC管理コンソールでの仮想KVMビューアの使用について**

BMC管理コンソールで仮想KVMビューア使用時に管理PCでWindowsキーを入力した場合に正しく動作しない場合があります。Windowsキーを使用する場合は、仮想KVMビューアの「Send Keys」メニューから「Right Windows Key」または「Left Windows Key」を選択してください。

- **BMC管理コンソールでの設定バックアップ/リストアの使用について**

- ・ 設定のバックアップ：

BMC管理コンソールで「設定のバックアップ」を行う際、『認証』にはチェックを入れないでください。「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」で設定を変更している場合は、その設定内容を記録し保管してください。

- ・ 設定のリストア：

必要に応じて「設定のリストア」を行った後、記録した内容を参照して「外部ユーザー設定」、「PAMオーダー設定」、「ユーザー管理」の再設定を行ってください。

- ・ その他の設定項目：

上記以外で「設定のバックアップ」の対象外となっている設定項目については、最新版のBMC管理コンソールユーザーズガイドの「5. リモート管理コンソールの使い方」の「設定のバックアップ/リストア」をご参照いただき、必要に応じて設定内容の記録と再設定を行ってください。

- ・ BMC管理コンソールユーザーズガイドの入手方法：

最新版のBMC管理コンソールユーザーズガイドの入手方法は、本書の冒頭に記載している「本製品の各種マニュアルの入手方法について」をご参照ください。

● **バックアップ・リストアツール (EXPRESSBUILDER内の「BIOS/BMC Configuration Backup/Restore Tool」)の使用について**

バックアップ・リストアツールでは装置に発生したメモリアンコレクタブルエラーおよびメモリアンコレクタブルエラーのメモリエラー情報もバックアップ、およびリストアします。メモリエラーが発生している装置でバックアップを行った場合、リストアした装置にメモリエラー情報が引き継がれるため、リストア後は下記を実施してメモリエラー情報をクリアしてください。

- ・ BIOS SETUPの[Advanced]-[System Agent (SA) Configuration]-[Memory Configuration]-[Memory Retest] を[Yes]に設定
- ・ BIOS SETUPの[Advanced]-[System Agent (SA) Configuration]-[Memory Configuration]-[Memory C-Error Retest] を[Yes]に設定
- ・ [Save & Exit] - [Save Changes and Exit] して再起動

● **BMC管理コンソールでのシステムインベントリにて表示されるL1キャッシュについて**

BMC管理コンソールのシステムインベントリに表示されるプロセッサ情報のL1キャッシュは、命令キャッシュのサイズを示しています。L1データキャッシュのサイズを確認するには、以下の手順に従ってください：

- ・ BIOSセットアップユーティリティ (SETUP) を開きます。
- ・ [Advanced] - [CPU Configuration]の順に選択します。
- ・ L1 Data Cacheの項目でサイズを確認します。

なお、OSのタスクマネージャーで表示されるL1キャッシュは、命令キャッシュとデータキャッシュの合計サイズが表示されます。

● **「ネットワーク インターフェイス “(デバイス名)” はリセットを開始しました。」というWindows ログについて**

OSが高負荷状態時、Windowsログに、「ネットワーク インターフェイス “(デバイス名)” はリセットを開始しました。」という警告のイベント(ソース:NDIS、ID:10400)が登録されることがあります。

- ・ デバイス名が、“AMI Remote NDIS6 based Device”の場合：
BMC ファームウェアのアップデートに使用するAMI Remote NDIS6 based Deviceが一時的に使用できなかったことを示しますが、自動的に復旧しているため運用には支障ありません。

- ・ デバイス名がオンボードLAN(Intel(R) I210 Gigabit Network Connection)、または、LANカードの場合：
ネットワーク接続が一時的に中断し、通信に失敗している可能性があります。自動的に復旧しているため運用には支障ありません。頻発する場合は、高負荷状態を発生させているアプリケーションの観点で調査し、OSの負荷軽減を実施してください。

● **オンボードRAID コントローラー (SW-RAID) の使用時の通知について**

オンボードRAID コントローラーを有効とし、ホットスワップ対応の3.5型HDDケージまたは2.5型HDDケージを使用したRAID構成で「初期化」や「ボリュームデータの検証」が実行された場合、システムイベントログ (SEL) に以下の内容が登録されます。また、Global HDDランプ2とDISKランプ2が点滅しますが、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

- イベントジェネレータ : 10h
- イベント内容 : デバイスベイ 情報
Rebuild/Remap in progress
- イベントジェネレータ : 10h
- イベント内容 : デバイスベイ 情報
Rebuild/Remap in progress

OSがプリインストールされた装置の初回電源投入後、または、EXPRESSBUILDERを用いてOSをセットアップした後に、バックグラウンドでRAIDの初期化が動作する場合があります。この場合、OS起動直後、Global HDDランプ2とDISKランプ2が約5秒間点滅しシステムイベントログ (SEL) が登録される場合がありますが、動作上の影響はありません。

● オンボードRAID コントローラー (SW-RAID) 使用時の注意事項について

オンボードのRAID コントローラー構成かつ、SATA 光ディスクドライブ接続構成において、以下の操作を行った場合、システムのイベントログにソース:iastorE、ID:4155の警告メッセージが登録されますが、システム動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

警告メッセージが登録される操作:

- 光ディスクの取り出し
- CD-RまたはCD-RWのブランクメディアへのアクセス
- CD-RW 媒体の消去

● Express5800/T110m ユーザーズガイドの読み替えについて

Express5800/T110mのユーザーズガイドに記載されている以下の部分を読み替えてください。

1章 概要→5.5.2 STATUSランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	いずれかのハードディスクドライブの故障を検出しました。(2.5 型 HDD ケージ搭載で、RAID 構築にしている場合)	保守サービス会社に連絡してください

＜読み替え＞

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	(本装置ではディスクドライブの故障検知は STATUSランプで表示されません。ディスクドライブ故障については下記等でご確認下さい。 RAIDカード: Universal RAID Utility SW RAID : Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ)	保守サービス会社に連絡してください

1章 概要→5.5.3 Global HDDランプ1,2

＜ユーザーズガイドの記載＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
消灯	アンバー色に点灯	・ オプションのRAIDコントローラーを使用し RAID構成にしている場合 ・ SW RAIDを使用しホットスワップ対応の3.5型 HDDケージまたは2.5型HDDケージでRAID構成にしている場合	ハードディスクドライブが故障しています。 電源ON直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点滅	アンバー色に点滅		リビルド中です。

＜読み替え＞

Global HDDランプ1,2の状態		構成	意味
Global HDDランプ1	Global HDDランプ2		
消灯	アンバー色に点灯	オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合	ハードディスクドライブが故障しています。 電源ON直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	オプションのRAIDコントローラーを使用しRAID構成にしている場合	リビルド中です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	SW RAIDを使用しホットスワップ対応の3.5型 HDDケージまたは2.5型HDDケージでRAID構成にしている場合 (3.5型Fixed HDDケージ構成は除く)	リビルド中または初期化/検証 動作中です。

1章 概要→5.5.6 DISKランプ

＜ユーザーズガイドの記載＞

DISKランプ1,2の状態		構成	意味	対処方法
DISKランプ1	DISKランプ2			
緑色に点滅	アンバー色に点滅	ホットスワップ対応の3.5型、2.5型 HDDケージを搭載したRAID構成	リビルド中です。	-

<読み替え>

DISKランプ1, 2の状態		構成	意味	対処方法
DISKランプ1	DISKランプ2			
緑色に点滅	アンバー色に点滅	ホットスワップ対応の3.5型、2.5型 HDDケースを搭載したRAID構成	リビルド中です。 初期化/検証動作中です。※	-

※初期化/検証動作中です：SW RAID構成のみ

2章 準備→1.6.3 RAID システム構築時の注意事項

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

SW RAID では RAID0 で <u>1台以上</u> 、RAID1 で 2 台以上、RAID10 で 4 台以上が必要です。 オプションの RAID コントローラを使用する場合は、RAID コントローラに添付の説明書を参照してください。	SW RAID では RAID0 で <u>2台以上</u> 、RAID1 で 2 台以上、RAID10 で 4 台以上が必要です。 オプションの RAID コントローラを使用する場合は、RAID コントローラに添付の説明書を参照してください。
---	---

2章 準備 →1.8.1 注意事項

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

(記載なし)	ただし、Windows Server OSで N8104-157A 10GBASE-T 接続ボード(2ch)を使用する場合は、「Enabled」に設定してください。
--------	--

2章 準備→1.8.2 オプションデバイスと取り付けスロット一覧 [T110m]/[T110m バリュースモデル]

<ユーザーズガイドの記載>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
N8104-201	1000BASE-T接続ボード(1ch) (カード性能：PCI Express 2.1(x1))	○	○	○	○	LAN増設用 カード形状はPCI Express 2.0(x4)
N8104-157	10GBASE-T接続基本ボード(2ch) (カード性能：PCI EXPRESS 3.0(x4))	○	○	○	○	LAN増設用 カード形状はPCI Express 3.0(x4) N8104-203と合わせて最大2枚まで

<読み替え>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
(削除)						
N8104-157A	10GBASE-T接続基本ボード(2ch) (カード性能：PCI EXPRESS 3.0(x4))	○	○	○	○	LAN増設用 カード形状はPCI Express 3.0(x4) N8104-203と合わせて最大2枚まで

2章 準備→1.16.1 内部インターフェイスクーブル→(1) ハードディスクドライブへのケーブル接続

→(a) 3.5 型 Fixed HDD ケーシ (N8154-143) の場合

/ (b) 3.5 型 HDD ケーシ (N8154-140) の場合

/ (c) 2.5 型 HDD ケーシ (N8154-170/-171) の場合

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

Controller	Controller
Motherboard	メインボード

2章 準備 →1.16.1 内部インターフェイスクーブル→(2) バックアップ装置の接続

→(b) SAS デバイスを搭載する場合

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

専用の内蔵 SAS ケーブル(K410-217(00))を使用します。	専用の内蔵 SAS ケーブル(K410-449(00))を使用します。
-------------------------------------	-------------------------------------

● Express5800/T110m-S ユーザーズガイドの読み替えについて

Express5800/T110m-Sのユーザーズガイドに記載の以下の部分を読み替えてください。

1章 概要→5.5.2 STATUSランプ1,2

<ユーザーズガイドの記載>

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	いずれかのハードディスクドライブの故障を検出しました。(2.5 型 HDD ケージ搭載で、RAID 構築にしている場合)	保守サービス会社に連絡してください

<読み替え>

STATUS ランプ 1, 2 の状態		意 味	対処方法
STATUS ランプ 1	STATUS ランプ 2		
消灯	アンバー色に点滅	(本装置ではディスクドライブの故障検知は STATUS ランプで表示されません。ディスクドライブ故障については下記等でご確認下さい。 RAID カード : Universal RAID Utility SW RAID : Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ)	保守サービス会社に連絡してください

1章 概要→5.5.3 Global HDDランプ1,2

<ユーザーズガイドの記載>

Global HDD ランプ 1, 2 の状態		構成	意味
Global HDD ランプ 1	Global HDD ランプ 2		
消灯	アンバー色に点灯	・ オプションの RAID コントローラーを使用し RAID 構成にしている場合 (RAID コントローラーにより点灯しない場合があります) ・ SW RAID を使用し 2.5 型 HDD ケージで RAID 構成にしている場合 3.5 型 HDD ケージでオプションの RAID コントローラーを使用している場合 (RAID コントローラーにより点灯しない場合があります)	ハードディスクドライブが故障しています。 電源 ON 直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点滅	アンバー色に点滅	・ オプションの RAID コントローラーを使用し RAID 構成にしている場合 (RAID コントローラーにより点滅しない場合があります) ・ SW RAID を使用し 2.5 型 HDD ケージで RAID 構成にしている場合	リビルド中です。

<読み替え>

Global HDD ランプ 1, 2 の状態		構成	意味
Global HDD ランプ 1	Global HDD ランプ 2		
消灯	アンバー色に点灯	オプションの RAID コントローラーを使用し RAID 構成にしている場合	ハードディスクドライブが故障しています。 電源 ON 直後、またはリセット直後に数秒間点灯する場合がありますが、これは通常の動作です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	オプションの RAID コントローラーを使用し RAID 構成にしている場合	リビルド中です。
緑色に点灯／点滅	アンバー色に点滅	2.5 型 HDD ケージで SW RAID を使用し RAID 構成にしている場合 (3.5 型 HDD ケージ構成は除く)	リビルド中または初期化/検証 動作中です

1章 概要→5.5.6 DISKランプ

<ユーザーズガイドの記載>

DISK ランプ 1, 2 の状態		構成	意味	対処方法
DISK ランプ 1	DISK ランプ 2			
緑色に点滅	アンバー色に点滅	ホットスワップ対応の 2.5 型 HDD ケージを搭載した RAID 構成	リビルド中です。	-

<読み替え>

DISK ランプ 1, 2 の状態		構成	意味	対処方法
DISK ランプ 1	DISK ランプ 2			
緑色に点滅	アンバー色に点滅	2.5 型 HDD ケージを搭載した RAID 構成	リビルド中です。 初期化/検証動作中です。※	-

※初期化/検証動作中です：SW RAID 構成のみ

2章 準備 →1.6.3 RAID システム構築時の注意事項

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

SW RAID では RAID0 で 1 台以上、RAID1 で 2 台以上、RAID10 で 4 台以上が必要です。オプションの RAID コントローラを使用する場合は、RAID コントローラに添付の説明書を参照してください。

SW RAID では RAID0 で 2 台以上、RAID1 で 2 台以上、RAID10 で 4 台以上が必要です。オプションの RAID コントローラを使用する場合は、RAID コントローラに添付の説明書を参照してください。

2章 準備 →1.8.1 注意事項

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

ただし、Windows Server OSで N8104-157 10GBASE-T 接続ボード(2ch)を使用する場合は、「Enabled」に設定してください。

ただし、Windows Server OSで N8104-157A 10GBASE-T 接続ボード(2ch)を使用する場合は、「Enabled」に設定してください。

2章 準備 →1.8.2 オプションデバイスと取り付けスロット一覧

<ユーザーズガイドの記載>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
N8105-61*2	グラフィックスアクセラレータ (カード性能: PCI Express 3.0(x16))	○	—	—	—	冗長電源ユニット[N8181-182]必須 最大1枚まで

<読み替え>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
N8105-61*2	グラフィックスアクセラレータ (カード性能: PCI Express 3.0(x16))	○	—	—	—	最大1枚まで

<ユーザーズガイドの記載>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
N8104-201	1000BASE-T接続ボード(1ch) (カード性能: PCI Express 2.1(x1))	○	○	○	○	LAN増設用
N8104-157	10GBASE-T接続基本ボード(2ch) (カード性能: PCI EXPRESS 3.0(x4))	○	○	○	○	LAN増設用 カード形状はPCI Express 3.0(x4) N8104-203と合わせて最大2枚まで

<読み替え>

型名	製品名	PCI				備考
		#1	#2	#3	#4	
(削除)						
N8104-157A	10GBASE-T接続基本ボード(2ch) (カード性能: PCI EXPRESS 3.0(x4))	○	○	○	○	LAN増設用 カード形状はPCI Express 3.0(x4) N8104-203と合わせて最大2枚まで

2章 準備 →1.8.7 N8181-191 PCI 用 FAN オプションの取り付け

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

12. 内蔵ドライブ用 FAN オプションを利用する時は、メインボードの GPGPU ジャンパーを有効: 2-3 に設定します。

12. PCI 用 FAN オプションを利用する時は、メインボードの GPGPU ジャンパーを 有効: 2-3 に設定します。

2章 準備 →1.12.4 内蔵バッテリーでの運用時の注意

→● 内蔵バッテリー搭載時の制限は、以下のとおりです。

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

(記載なし)	・内蔵バッテリーと非冗長電源ユニット[N8181-181]と以下の装置の同時搭載は不可 ●CPUボード(8C/3.2GHz/E-2488) [N8101-1860] ●GPUコンピューティングカード[N8105-64] ●増設用2.5型HDDケージ [N8154-138] ●NVMe SSD ・内蔵バッテリーと非冗長電源ユニット[N8181-181]と
--------	--

グラフィックスアクセラレータ [N8105-61] の同時搭載時、2.5型 SAS/SATA HDD/SSDは最大3個まで搭載可能

2章 準備 →1.13 電源ユニット

- 「非冗長電源ユニット」と「非冗長電源ユニット」は同じ意味です。
- 非冗長電源ユニット搭載時の制限は、以下のとおりです。

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

(記載なし)	<ul style="list-style-type: none">・ 非冗長電源ユニットと以下の装置の同時搭載は不可<ul style="list-style-type: none">● GPUコンピューティングカード [N8105-64]● NVMe SSD・ 非冗長電源ユニットとグラフィックスアクセラレータ [N8105-61] と以下の装置の同時搭載は不可<ul style="list-style-type: none">● CPUボード (8C/3.2GHz/E-2488) [N8101-1860]● GPUコンピューティングカード [N8105-64]● NVMe SSD・ 非冗長電源ユニットとCPUボード [N8101-1861, -1862, -1863] とグラフィックスアクセラレータ [N8105-61] と増設用2.5型 HDD ケージ [N8154-138] の同時搭載は不可・ 非冗長電源ユニットと内蔵バッテリー [N8181-152/153] と以下の装置の同時搭載は不可<ul style="list-style-type: none">● CPUボード (8C/3.2GHz/E-2488) [N8101-1860]● GPUコンピューティングカード [N8105-64]● 増設用2.5型HDDケージ [N8154-138]● NVMe SSD・ 非冗長電源ユニットと内蔵バッテリー [N8181-152/153] とグラフィックスアクセラレータ [N8105-61] の同時搭載時、2.5型SAS/SATA HDD/SSDは最大3個まで搭載可能
--------	---

2章 準備 →1.16.1 内部インターフェiskeケーブル

- (1) ハードディスクドライブへのケーブル接続
- (a) 3.5 型ハードディスクドライブを増設した場合
- ● オプションの RAID コントローラー (N8103-225/232/233/234/235) を増設した場合

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

Controller	Controller connector	Controller connector
N8103-225	C0	(Slim SAS)

2章 準備 →1.16.1 内部インターフェiskeケーブル

- (1) ハードディスクドライブへのケーブル接続
- (a) 3.5 型ハードディスクドライブを増設した場合
- ● オプションの RAID コントローラー (N8103-225/232/233/234/235) を増設し、さらに増設用2.5型HDDケージ (N8154-138) を増設した場合

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

(記載なし)	K410-492 (00) に添付のスロット番号 (0, 1) のラベルを増設用 2.5 型 HDD ケージ前面のスロット番号 (4, 5) のラベルに重ねて貼り付けてください。また、スロット番号 (4, 5) のラベルを 3.5 型 HDD ケージのロックプレートのスロット番号 (0, 1) の刻印に重ねて貼り付けてください。
--------	---

4章 付録 →1.仕様 1.1 空冷モデル 拡張ベイ 3.5型拡張ベイ

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

1スロット (バックアップ装置専用)	2スロット (搭載条件あり)
--------------------	-------------------

4章 付録 →1.仕様 1.2 水冷モデル 拡張ベイ 3.5型拡張ベイ

<ユーザーズガイドの記載>

<読み替え>

1スロット (バックアップ装置専用)	1スロット (搭載条件あり)
--------------------	-------------------

● Express5800/T110m-S , T110m メンテナンスガイドの読み替えについて

Express5800/T110m-S , T110m メンテナンスガイドに記載の以下の部分を読み替えてください。

3章 → 2.Windowsイベントログ一覧

→ Windows Server 2022 →システムイベントログ

<メンテナンスガイドの記載>

(記載なし)

<読み替え>

15	Microsoft- Windows- Wininit	警告	Credential Guard や VBS キーの分離が構成されていますが、セキュリティで保護されたカーネルが実行されていません。それらを使用せずに続行します。
	システム起動時		ID:14/ ソース :Microsoft-Windows-Wininit (Credential Guard の構成 : 0x0, 0) と同時に記録されている場合は、システム動作上問題ありません。

*****【ご注意】*****

以下の注意事項は、本体装置のBIOSファームウェアおよびBMCファームウェアにより対象が異なります。ご使用の本体装置のファームウェアはBIOSセットアップユーティリティで確認できます。詳細はメンテナンスガイドを参照してください。

1. BMCファームウェアのリビジョン 00.90、00.92が適用された本体装置の注意事項

● 電力監視機能、電力制御機能について

ユーザズガイド1章に電力監視機能、電力制御機能について記載がありますが、本製品で未サポートとなります。そのため、以下のような事象が発生する場合があります

・ESMPRO/ServerManagerにおける消費電力制御に関係したメニューがエラー表示

- 「リモート制御」タブの「電力管理」- 「電力測定」にて、測定開始を行うとステータスが測定失敗となる。
- 「リモート制御」タブの「電力管理」- 「ECO設定」- 「消費電力制御」を選択すると、「マネージメントエンジン情報の取得に失敗しました。」と表示される。
- 「リモート制御」タブの「電力管理」- 「ECO設定」- 「Suspend Periods設定」を選択すると、「マネージメントエンジン情報の取得に失敗しました。」と表示される。

・オフラインツールにおける消費電力制御に関係したメニューがエラー表示

- 「Server Configuration Utility」の「ECO」- 「Statistics Values」、または「Configuration」を選択すると、「ERROR! The Management Engine information could not be obtained.」と表示される。
- 「Server Configuration Utility」の「ECO」- 「Clear NM Configuration」にて設定クリアを実行すると「ERROR! Failed to initialize the ECO configurations.」と表示される。

● センサ故障のログについて

以下のログがシステムイベントログ(SEL)に登録される場合があります。

センサ故障が登録されるセンサは、Processor1 Power(センサ番号 29h)、CPU Temp(センサ番号 A0h)、CPU Margin(センサ番号 A2h)、PCH Temp(センサ番号 A6h)です。

センサ故障 発生

I2C バス上のデバイスエラーを検出した

センサ Owner ID: 10h

センサ番号: 29h、A0h、A2h、A6h のいずれか

OSのシステムイベントで確認する場合、ESMPRO/SASが登録するセンサの異常情報では、SELダンプの最後の値が対象のセンサ番号を示します。

例：SELダンプ：4A0002538AE765200004F68A73A120A2 の場合、センサ番号はA2hです。

これらのイベントはサポートしていない電力監視機能によって発生しており動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

オフラインツールにて通報機能を設定する場合、「Server Configuration Utility」－「BMC」－「Configuration」－「SNMP Alert」－「Alert Level」の「Sensor Failure Critical」（センサ故障）については“Disable”（無効）にしてください。

- **T110m-S 内蔵バッテリー搭載構成で瞬電や停電発生時に登録されるセンサ故障のログについて**
内蔵バッテリー搭載構成でAC供給が絶たれた際、従来製品とは異なり下記4つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。
センサ故障が登録されるセンサは、POWER（センサ番号:2Ch）、PSU1 Temp（センサ番号:32h）、Power Supply 1（センサ番号:61h）、PSU FAN1（センサ番号:70h）です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 2Ch、32h、61h、70h 4つ

- **冗長電源構成（電源ユニット2台搭載）で、本体装置が電源ONのまま電源ユニットを取り外した際に登録されるセンサ故障のログについて**

本体装置が電源ONのまま電源ユニットが取り外された際、従来製品とは異なり下記3つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

- ・ 電源ユニット1の場合、センサ故障が登録されるセンサはPSU1 Temp（センサ番号:32h）、Power Supply 1（センサ番号:61h）、PSU FAN1（センサ番号:70h）です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 32h、61h、70h 3つ

- ・ 電源ユニット2の場合、センサ故障が登録されるセンサはPSU2 Temp（センサ番号:3Bh）、Power Supply 2（センサ番号:62h）、PSU FAN2（センサ番号:78h）です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 3Bh、62h、78h 3つ

- **冗長電源ユニットを1台のみ搭載時に登録されるセンサ故障のログについて**

冗長電源ユニットを搭載し、増設用冗長電源ユニットを搭載しない構成（※）で装置を起動すると、下記3つのセンサ故障イベントが登録されますが動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

※例：CASNAVI 上T110mにて下記電源構成を選択された場合

標準電源ユニット : 冗長電源ユニット [N8181-183]

増設用冗長電源ユニット : なし

センサ故障が登録されるセンサは、PSU2 Temp1（センサ番号: 3Bh）、Power Supply 2（センサ番号: 62h）、PSU FAN2（センサ番号: 78h）です。

センサ故障 発生

I2Cバス上のデバイスエラーを検出した

センサOwner ID: 10h

センサ番号: 3Bh、62h、78h

2. BMCファームウェアのリリース 00.90、00.92、00.97が適用された本体装置の注意事項

- オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源のワット数を越えた値を示す場合について
オフラインツールのServer Configuration Utilityにて、ECO > Statistics Values の表示画面でPower Consumptionの最大値が使用している電源ユニットのワット数を越えた値を示す場合があります。

N8181-181 電源ユニット: 250W

N8181-177 電源ユニット: 500W

N8181-182/183 冗長電源ユニット : 550W

N8181-184 増設用冗長電源ユニット : 550W

使用している電源ユニットにて、上記の値を越えている場合、同画面内のReset “Power Consumption” Statisticsを実行して、履歴をクリアしてください。

● **IPMI over LAN設定がDisableでShared LAN設定を行うと、Network設定の取得/変更ができない場合について**

IPMI over LANがDisable(出荷時のデフォルト設定)の設定でオフラインツールからShared LANを有効にした場合、BMCリセットすると以降オフラインツール上でネットワーク設定の取得/変更ができなくなります。本現象が発生した場合、以下の手順で対応してください。

- ・ BMC管理コンソールにログイン :
一時的に IPMI over LAN設定をEnableにすることでネットワーク設定の参照/変更が可能となります。
- ・ BMC管理コンソールにログインできない場合 :
オフラインツールのServer Configurationにて、BMC > Configuration Initialization
を実行し工場出荷時設定に戻した後に、再設定してください。

3. **BMCファームウェアのバージョン 00.90、00.92、00.97、01.00が適用された本体装置の注意事項**

● **Windows Server 2019/2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてHID準拠マウスデバイスに「！」が表示される場合について**

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューア使用の際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. 次のいずれかの方法でBMC RESETを実行してください。
 - ・ 本体装置のBMC RESETスイッチを押します。
 - ・ BMC管理コンソールから「メンテナンス」-「システム操作」-「BMCリセット」を選択します。
2. BMCリセットが完了した後、仮想KVMビューアの再接続を行います。

BMCリセットが完了したことを確認するには、まずステータスランプ1と2が両方点灯し、その後ステータスランプ1のみが点灯していることを確認してください。Statusランプの詳細については、本製品のユーザズガイドをご参照ください。

● **Windows Server 2019/2022の起動後、Windows OSのデバイスマネージャーにてVirtual Mouse Gadgetに「HIDキーボードデバイス」が表示される場合について**

(「表示(V)」にて「デバイス(コンテナー別)(C)」を選択時)

本現象が発生した場合、BMC管理コンソールで仮想KVMビューアを使用の際に、リモートからのマウス入力が動作しなくなります。この現象を解消するため、以下の手順を実施してください。

1. デバイスマネージャーを開き、Virtual Mouse Gadgetの「HIDキーボードデバイス」を選択します。
2. 右クリックして「デバイスのアンインストール(U)」を選択します。
3. 「操作(A)」メニューから「ハードウェア変更のスキャン(A)」を選択します。

現象が解消するまで同じ手順を繰り返し実施してください。

4. **BIOSファームウェアのバージョン F03が適用された本体装置の注意事項**

● **オンボードRAID コントローラー(SW-RAID) 有効時、内蔵の光ディスクドライブにセットした一部のメディアから起動できない**

EXPRESSBUILDER DVD から起動するときは、USB接続の光ディスクドライブをご使用ください。
内蔵の光ディスクドライブでは EXPRESSBUILDER DVD から起動できません。

5. **BIOSファームウェアのバージョン F03, F04が適用された本体装置の注意事項**

● **システムイベントログ(SEL)に登録される「ファームウェア例外」について**

以下のログがシステムイベントログ(SEL)に登録される場合があります。

イベントジェネレータ : 16h

イベント内容 : その他 発生

マネージメントエンジンの状態変化を検出した

イベント詳細 : ファームウェア例外

また、通報サービスでは、上記のログに対し以下の内容が通報されます。

ファームウェア例外を検出しました。

拡張エラーコード: 0x01

センサ番号: 17h

位置: Management Controller Firmware 0

本イベントは誤った検出であるため、動作上の影響はありません。運用にあたって特別な対応は不要です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先: ファーストコンタクトセンター

T E L : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

